

新時代の巨匠インキネンと世界の樫本大進が、 新ホール“hitaru”で協演！深い絆で結ばれた二人が、 ヨーロッパの名門オーケストラと共に贈る永遠の名曲！

「百塔の街」と呼ばれるヨーロッパで最も美しい都市のひとつ古都プラハ。この街が世界に誇るオーケストラ、プラハ交響楽団は、2015年にフィンランドが生んだ新時代の巨匠ピエタリ・インキネンを首席指揮者に迎え、80余年の歴史に新たなページを書き加えました。

そして、今回、協演を果たす樫本大進とインキネンは、実は深い絆で結ばれています。ヴァイオリニストとしても非凡な才能を持つインキネンは、かつてヴァイオリンの世界的名教師ザハール・ブロンのもとで研鑽を積んでおり、同じブロン門下で1歳違いの樫本大進とは10代の頃から友人関係にあったのです。

2019年の幕開けに、注目の顔ぶれで聴く壮麗なコンチェルト、そしてボヘミアの郷愁に彩られたスラヴの傑作交響曲に、名演への期待は高まるばかりです。



PRAGUE SYMPHONY ORCHESTRA *New Year Concert*

ピエタリ・インキネン (首席指揮者) Chief Conductor Pietari Inkinen

現在、日本フィルハーモニー交響楽団、プラハ交響楽団、ルートヴィヒスブルク城音楽祭の首席指揮者を務める。2018年9月より新たにザールブリュッケン・カイザーズラウテルンドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者に就任。これまでに、ニュージーランド交響楽団音楽監督を8年間務めたほか、ミュンヘン・フィル、スカラ・フィル、ロサンゼルス・フィル、イスラエル・フィル、バイエルン放送響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランス放送フィル等に客演。オペラの分野においても、ベルリン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場をはじめ、各国のオペラハウスに出演。



16-17シーズンは、ロイヤル・コンサートヘボウ管、ベルリン放送響、ブダペスト祝祭管と初共演。17-18シーズンのハイライトには、ケルン・ギェルツェニヒ管、ハンブルク北ドイツ放送響、フィンランド歌劇場の《蝶々夫人》におけるデビュー、BBCフィル、フィンランド放送響等との共演が予定されている。

2013年9月オペラ・オーストラリアによるワーグナーの「ニーベルングの指環」(ニール・アームフィールド演出)の初演を指揮。メディアでも絶賛され、翌14年8月のヘルプマン賞において「オペラ・オーストラリアの《リング・サイクル》ベスト・ミュージック・ディレクション」に選出された。このプロダクションは、2016年11月から12月にかけて3チクルスが再演され、インキネン指揮による演奏は再度絶大な評価を受けた。録音は、ニュージーランド交響楽団「シベリウス: 交響曲全曲」、日本フィルハーモニー交響楽団「シベリウス: 交響曲全曲」(ナクソス)、サイモン・オニール/ニュージーランド交響楽団「父と子〜ワーグナー: アリア集」(EMI)などがある。

フィンランド出身。シベリウス音楽院でヨルマ・パヌラ、レイフ・セーゲルスタムらに、また、ヴァイオリンをザハール・ブロンに師事。

プラハ交響楽団 Prague Symphony Orchestra

1934年、指揮者のルドルフ・ベッカーレが創立し、この新しい楽団の活動分野をフィルム・オペラ・コンサートと定義づけ、その略称FOKは同楽団の名称の一部となった。その後の活動の主たる推進者は創立以来一貫してヴァーツラフ・スメターチェクであった。

スメターチェクは短期間のうちに、同楽団を国内の熾烈な競争に十分に耐えうる大規模な交響楽団へ発展させることに成功した。1942年には首席指揮者に就任、30年間にわたって同楽団を率いた。彼のリーダーシップのもと、同楽団は高い演奏水準に到達し、国際的な名声を得るようになった。

同楽団の長年におよぶ努力が実り、1952年プラハ市は同楽団に市を代表するオーケストラという地位を与えた。長く使われてきた「FOK」という頭文字を残し、オーケストラの新しい名称は「首都プラハの交響楽団FOK」となった。

スメターチェクが首席指揮者を退いた後、イルジー・ビエロフラーヴェク(1977-89)が、後を引き継ぎ、その在任期間は、芸術的成長の観点において重要な時期となった。



樫本大進 (ヴァイオリン) Daishin Kashimoto, Violin

フリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーなど、5つの権威ある国際コンクールで優勝。マゼール、小澤征爾、ヤンソンス、ラトル、P.ヤルヴィなど著名指揮者のもと、ベルリン・フィルをはじめ国内外のオーケストラと共演している。室内楽では、クレームル、堤剛など著名ソリストと共演し、現在、兵庫県で室内楽音楽祭「ル・ボン」を音楽監督として率いている。主なCDに、ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ全集(ワーナー・クラシックス)など。2010年よりベルリン・フィル第1コンサートマスターを務める。

これまで恵藤久美子、田中直子、ザハール・ブロン、ライナー・クスマウルに師事。1995年アリオ音楽賞、1997年出光音楽賞、モービル音楽賞、1998年新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、平成9年度芸術選奨文部大臣新人賞、2011年兵庫県文化賞、チェンジメーカー2011クリエイター部門、ドイツに於いてはシュタインゲンベルガー賞、ダヴィドフ賞を受賞。使用楽器は1674年製アンドレア・グワルネリ。



ビエロフラーヴェクの後は、ペトル・アルトリヒテル(1990-92)、マルティン・トゥルノフスキー(1992-95)、ガエターノ・デローグ(1995-98)が続いた。

また、同楽団と共演する機会の多かった著名なチェコの指揮者としては、ヴァーツラフ・ノイマン、ズデニェク・コシュラー、ヴラディーミル・ヴァーレクなどがある。2001年3月から2005/2006シーズンの終わりまでは、セルジュ・ボドが同楽団の首席指揮者および音楽監督を務めた。

2006/07年シーズン以降はセルジュ・ボドが名誉指揮者となり、イルジー・コウトが首席指揮者を務め、2015年9月からは、ピエタリ・インキネンが首席指揮者を務めている。

プラハ交響楽団はその歴史の中で、多くの優れた指揮者および多彩なソリストたちとも共演している。同楽団は、欧米で頻繁にツアーを行っているほか、南米、プエルトリコ、台湾、韓国、トルコ、イスラエルなどの国々を訪れている。

さらに、同楽団の実力を示す証として挙げられるのは、チェコおよび世界中の作品をレパートリーとしたレコード、ラジオ、およびテレビにおよぶ多様な録音である。